

若年性認知症の人のための 診断前後の空白期間の充実に向けて 生きがいとしての仕事の場「タック」



認知症の診断技術は向上し、早期に診断を受ける人が増えています。
しかし、診断を受けた後にすぐに介護保険を利用する状態でもありません。
この期間を診断前後の空白期間と言います。
診断を受けたものの・・・いったい何をすれば認知症は進行しないのか？
どう暮らせばよいのか？など、
当法人では、2015年から生きがいとしての仕事の場「タック」を続けています。
その実践を通して、わかったことをご報告します。

タックとは

タックは、中堅世代の若年性認知症の人、また、病気や介護などのために離職した人などが、生きがいとしての「仕事の場」です。

若い介護家族が、くるみボタンでバッジやヘアゴムを作成していたことがきっかけで、介護保険をまだ利用していない若年性認知症の人達と一緒に作成することになりました。作成、販売の活動を通して、仲間づくりや、自信の回復、若年性認知症の啓発、社会参加、就労の支援（出来ること探し、次のステップへ繋げていくこと）を行っています。

講師：

NPO 法人認知症の人とみんなのサポートセンター

代表 沖田 裕子

副代表 杉原 久仁子

内容：

1. 診断前後の空白期間に必要な支援

診断を受けるまで、そして診断を受けた後

2. タックから見えてきたもの

自信の回復、障がいの受容、就労支援

日 程：2016年6月11日（土）13:30～16:45（13:15より受付）

参加費：1,000円 認知症のご本人 無料 定員80名 先着順

場 所：大阪市社会福祉研修・情報センター 4階会議室（大阪市西成区出城2-5-20）

裏面の申込書を郵送又は、FAXで送ってください。

*認知症ケア専門士（日本認知症ケア学会）2単位が取得予定です。（申請中）

*当会の賛助会員は、年間3,000円まで研修が無料です。

主催：特定非営利活動法人 認知症の人とみんなのサポートセンター

後援予定：日本認知症ケア学会 大阪市ボランティア活動振興基金申請中

若年性認知症の人のための

診断前後の空白期間の充実に向けて(締切6月4日)

申込書

FAX: 06-6972-6492

ふりがな 氏名			
職業など	認知症の本人・介護家族・地域包括支援センター職員・介護福祉関係事業所職員 障害者関係事業所職員・病院職員・行政職員 その他()		
所属名(勤務先)			
連絡先	自宅 ・ 所属先		
連絡先住所	〒		
電話番号	TEL	FAX	
認知症ケア専門士	専門士番号	当法人賛助会員	はい ・ いいえ

【注意事項】

※研修中の録音、録画等は一切禁止です。

※個人情報保護法に基づき、この申込み書は受講登録に使用するものであり、他の目的に使用することは一切ありません。

※受講者には、受講票送り返しません。受講定員をオーバーした場合にのみお断りのハガキを送ります。

＜研修会場案内＞

〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20

大阪市社会福祉研修・情報センター

＜アクセス＞

※JR 大阪環状線・大和路線

「今宮」駅より徒歩約10分

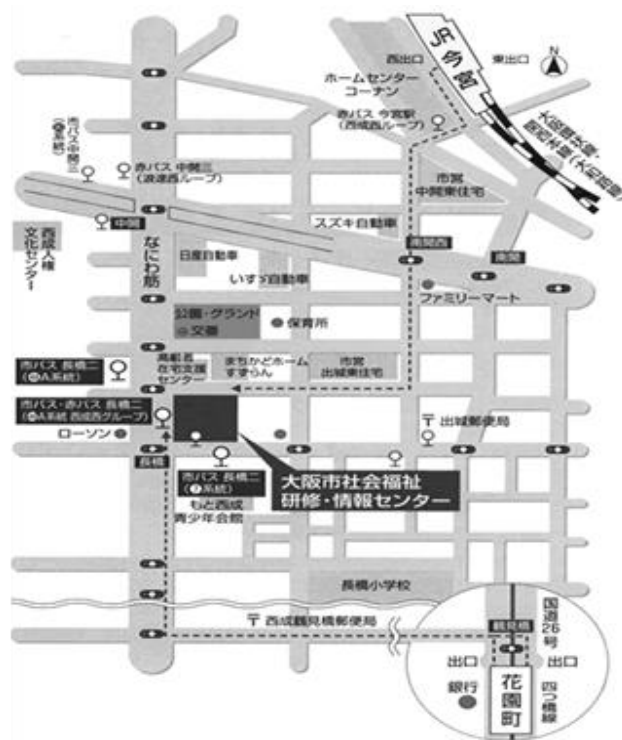
※市営地下鉄・四つ橋線

「花園町」駅(2号出口)より徒歩約15分

※市バス

「長橋二丁目」バス停すぐ

52系統 なんば～あべの橋



【連絡先】 特定非営利活動法人 認知症の人とみんなのサポートセンター

〒537-0024 大阪市東成区東小橋1-18-33

TEL 06-6972-6490 FAX 06-6972-6492

ホームページ: <http://minnanospc.grupo.jp/>